



梅島小だより

ルールとマナー

私が、学級担任をしていた頃、こんなことがありました。

体育の時間にバスケットボールの授業をしていたのですが、授業後何人かの児童が、「先生、『試合中に相手を笑わせてはいけない』というルールを作ってください。」というのです。事情を聞いてみると、試合中に下品なことを言って笑わせてくるので嫌だということでした。「笑わせる」と言われている本人に聞いてみると、「だって『笑わせてはいけない』というルールなんでないじゃん！」と言い張っています。

私は「試合中に下品なことを言って相手を笑わせるのは、相手に対して失礼だよな。」と言った後で、「でもそれってルールとして決めることなのかな？」と最初に訴えてきた子ども達にも問い返しました。子ども達はみんな考え込んでしまっています。そこで、私は、「それは、『ルール』として決めるのではなく、『マナー』としてみんなで気をつけていくことだと思うよ。」と指導しました。

世の中には、ルールや規則などとして明文化されてはいないけれど、お互いが気持ちよく生活していくために配慮しなければいけない事柄が沢山あり、それらは一般的に「マナー」と言われています。辞書によれば、マナーとは「人と人との関わりで当然その場面で然るべきとされる行儀、作法のこと。」とあります。例えば「食事のマナー」とか、「車内のマナー」とか、言われますね。

「ルール」も「マナー」も「社会生活（集団生活）を円滑に送るための仕組み」を意味している点では共通していますが、「ルール」は「個人の行動に対する一定の強制力がある決まりごと」（守らなければ何らかのペナルティーが課せられる）であるのに対して、「マナー」は「強制力（ペナルティー）はないが、守ったほうがお互いに気持ちよく過ごせる態度や礼儀」を意味しているという点で違いがあります。

「肘をついてご飯を食べてはいけない」「脱いだ靴は揃えなければいけない」「置いてあるものを勝手に触ってはいけない」「道にゴミを捨ててはいけない」「人を指さしてはいけない」「電車やバスの中で大声を出してはいけない」「順番を守らなければいけない」「自慢をしてはいけない」……。子供の時に両親から繰り返し繰り返し言われてきた言葉を今でも思い出します。

「集団生活を円滑に送るための仕組み」であるのですから、当然のことながら学校や学級の中にもマナーは存在しますよね。むしろ、「学校生活のきまり」の多くは「マナー」に基づいているといってもいいかもしれません。お互いに気持ちよく生活するために…。

【お知らせ 教育実習の先生が来ています】

11月22日から12月16日までの4週間、教育実習の先生が梅島小学校の子ども達と一緒に、勉強をしています。主に、3年3組で授業などは行う予定ですが、校内でお見掛けすることがあるかもしれません。よろしく願いいたします。